

## 36回生からのメッセージ

今年3月に卒業した教育総合類型の卒業生(10期生)に連絡を取り、現在の状況を聴き、後輩たちへのメッセージを送っていただきました(21名から回答を送っていただきました)。協力してくれた卒業生のみなさん、ありがとうございます!

以下、内容を損なわない程度にまとめて掲載しています。



### Q1 今、大学や専門学校で学んでいること

- ・ 幼児教育や保育の勉強(幼児理解、年齢別の援助の仕方など)
- ・ 社会福祉の勉強
- ・ 音楽の勉強(ピアノの練習、音楽理論やピアノ以外の器楽)

### Q2 甲山高校で学んだこと

- ・ 保育に関する知識・技術(折り紙、ペープサート製作、手遊び、造形遊びなど)
- ・ 子どもとの関わり方(保育インターンシップ)
- ・ 子どもたちの前での発表(シアター、ペープサート)
- ・ 自然の楽しさと危険。子どもたちに自然の良さを知ってもらう取組



### Q3 教育総合類型の後輩たちへのメッセージ

- ・ 高校の授業で習ったことは、大学に行ってもとても役に立つことばかりなので、今はしんどいと思うけれど、高校生活を楽しみながら頑張ってください!
- ・ 教育総合類型で学んだことは、大学で必ず役に立ちます。ふれあい農園やインターンシップで子どもと関わり、子どもと関わる仕事に就きたいと思った人は、諦めずにその夢を追い続けて頑張ってください。
- ・ リトミックで制作したペープサートや、教材、折り紙ノート、作った折り紙作品などは残しておくことで大学の課題でも役に立ちます。
- ・ 作品制作や読み聞かせ発表、ピアノの練習などは大変ですが、進学後にとても役に立つので頑張ってください。
- ・ 手遊びや実技で身に付けたことは、大学でも絶対に役立つので、高校から学べて良かったです。
- ・ 類型で事前に保育のことを学んでから進学すると、大学の学びでよいスタートが切れます。頑張ってください。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で行事が減ったり、休校になったりして皆さん大変な思いをされていると思いますが、高校で学んだことや経験したことは全て宝物です。大切にしてください!

## 高大連携協定

本校は、9月1日（水）付けて甲子園大学・甲子園短期大学と高大連携に関する協定書を交わしました。教育総合類型のプログラムを含め、専門的な分野については、大学の先生方に講義等の協力をしていただきながら進めていくことになりました。

## 体育大会 教育総合類型プログラム

10月1日（金）に実施された体育大会の中で、夙川宝プリスクールの園児たちを招いて教育総合類型プログラムが行われました。教育総合類型3年生の生徒たちと園児たちが参加しました。園児たちがグラウンドを元気に走る姿を、全校生が応援していました。園児にバトンを渡す際に、姿勢を屈め、走り出す背中に手を添える生徒たちの姿に、優しさを感じました。ゴールでは生徒たちが声援を送りながら出迎えました。

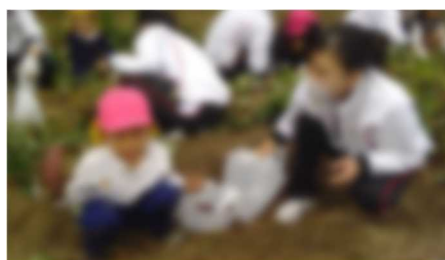


## 保育技術検定

10月15日（金）に、本校の教育総合類型の1年生が、全国高等学校家庭科保育技術検定（文部科学省後援）を受検しました。1年生にとっては初めての検定への挑戦で、全員が4級に挑戦しました。試験内容は、歌唱、折り紙、読み聞かせ、赤ちゃん人形のお世話の4項目で、いずれも保育士として必要な力を問うものでした。2年生では3級を目指します。

## ふれあい農園

10月19日（火）の放課後に、教育総合類型の1～3年生が集まり、夙川宝プリスクールの園児たちを招いてサツマイモ掘りを実施しました。スクールの玄関まで迎えに行き、本校生1人あたり1～2人の園児と組を作り、学校まで一緒に行きました。代表生徒（1年生）からの注意説明のあと、それぞれの組でサツマイモ掘りを進めました。今回、1年生にとっては初めての園児と触れ合う機会となりました。最初はなかなか園児と打ち解けられなかった生徒も、帰りには園児との会話が盛り上がり、成長が見られました。



# 教育総合類型通信 第2号

令和3年9月1日

発行人 県立西宮甲山高等学校  
教育総合類型推進委員会

## オープンハイスクール

7月30日（金）に、中学3年生とその保護者の方を対象に、西宮市立夙川公民館でオープンハイスクールを実施しました。この中で、本校の教育総合類型の生徒が活動の内容や成果を発表しました。1年生は保育技術検定への取組の説明、2年生はペープサート「ぶんぶん茶釜」の実演、3年生は保育インターンシップの成果発表と「はらぺこあおむし」の発表を行いました。特色のある授業についての説明では、「手話」を受講している生徒が、手話歌「花は咲く」を発表しました。



## 保育インターンシップ

8月の夏休みの間に、教育総合類型の2年生が、夙川宝プリスクールで保育インターンシップに取り組みました。3グループに分かれて2日間訪問し、保育の活動や学習に携わりました。子どもたちの年齢に応じて、絵本の読み聞かせや園庭遊び、作物の収穫などに取り組みました。夙川宝プリスクールの職員の方から、保育の仕事についてのお話をしていただき、保育士を目指す自覚を深める機会となりました。



インターンシップを終えた生徒たちは、2学期の成果発表に向けて、振り返りと資料作りに取り組んでいます。高大連携の一環として、大阪大学の教員志望の学生に来ていただき、資料作成の補助をしてもらいました。年齢の近い「お兄さん・お姉さん」の目線でアドバイスしてもらい、振り返り活動を深めていました。なお、活動に際し、体温の管理、手指消毒やマスクの常時着用等の感染対策を徹底しました。



## 保育技術検定

本校の教育総合類型の生徒は、全国高等学校家庭科保育技術検定（文部科学省後援）を受験しています。今年度は、5月下旬～6月上旬にかけて教育総合類型の2・3年生が挑戦しました。受験する級によって内容は異なりますが、だっこや衣類の着脱等の乳幼児の世話、折り紙、紙芝居、ピアノ演奏、独唱などの実技試験が課されています。中間考査の勉強の合間をぬって多くの生徒が放課後居残り、実技試験対策をしていました。試験科目は、いずれも保育士として必要となる能力を試すものとなっており、将来に向けての自覚を深めるよい機会になったようです。

## 春のふれあい農園



5月28日と31日に、類型の1～3年生が集まり、本校敷地内の「ふれあい農園」の整備をしました。夏ごろに、この農園に保育園の子どもたちを招いてイモ掘りをします。そのための準備として、5月28日に雑草抜き（写真左）と耕起（写真中央）、31日に苗植え（写真右）をしました。各学年混合の4チームに分かれ、一面に広まった雑草をすべて手で抜く作業から始まりました。

最初は虫に驚いていた生徒たちも、後半は慣れて、学年を超えた交流が深まりました。上級生は1年前にも取り組んでおり、下級生にやり方やコツを教えることを通して、類型の縦のつながりが育まれる機会になりました。



### 生徒の感想より

- 作業をしながら類型の先輩たちと話ができて楽しかったです（1年生）。
- 園児を招く次回のふれあい農園では、楽しむだけでなく、子どもたちの安全に気を付けながら頑張りたいと思います（1年生）。
- 1年生が入ってきてうまく伝えられないこともあり、自分からもっとアドバイスできるようになってきたいと思った（2年生）。
- 1年生と仲良くなれる機会になりました。ふれあい農園は達成感があり、コミュニケーション力も身に付くと思うので、これからも積極的に取り組んでほしいです（3年生）。